

平成23年度事業報告書

23年1月1日から23年12月31日まで

特定非営利活動法人 SPORTS PRODUCE 熊野

1 事業の成果

特定非営利活動に係る事業の成果

<p>●世界遺産を歩く 熊野古道ほんまもん修験道体験(大雲取越)</p> <p>平成23年4月3日(日) 和歌山県観光連盟・新宮市観光協会の後援を頂き、熊野の自然環境を守り、日々の生活の安全、安心を祈願しながら、修験者と共に世界遺産の熊野古道(大雲取り越え)を歩き、最後に参加者一同探燈大護摩供に参加し、感謝の祈願を行う。特に、今回は、3月の東日本大震災直後の古道歩きであったので、この探燈大護摩供では、震災で亡くなった方の冥福と一日も早い復興の祈願を行う。</p> <p>Aコース参加者 100名(那智高原～小口自然の家 14.6km) Bコース参加者 96名(那智高原よりバスで地藏茶屋に移動～小口自然の家 7.8km)</p>
<p><成果> 3月の東日本大震災直後で開催の見送りも考えたが、縮こまるのではなく、ご冥福を祈り復興を祈願する意味を持たせることで実施に踏み切り、大勢参加して頂き、最後の探燈大護摩供で、全員が心を一つにして、祈願させていただく事が出来た。また、地元の方々のおもてなしも受け、交流の場として、一人ひとりの繋がりを深める事が出来た。</p>
<p>●「第5回 白浜エアポートクリテリウム2011」</p> <p>平成23年4月24日開催。 旧南紀白浜空港跡地を使用して行うクリテリウムのレース。使用していない空港の有効利用を目的として始めたレース。年々、市民のママチャリレースは仮装での参加者もいて、大会を楽しく盛り上げている。本年は、自転車のスピードに掛けて、特別企画としてスーパーカーの展示も行い、多くの観衆の来場を見る事が出来た。</p> <p>■参加選手・・・ ●一般選手 34名 ●ママチャリ1時間耐久レース 36チーム 185人 ●実業団レース 249名(女子10名)</p>
<p>●第13回「TOUR de 熊野」大会の実施</p> <p>平成23年5月26日から5月29日の間、新宮市(和歌山県)、熊野市・御浜町(三重県)、太地町(和歌山県)の三会場で実施されたUCI(国際自転車競技連合)公認の国際自転車レースの開催。3月の東日本大震災の後、いくつかのレースの開催が中止され、TOUR de 熊野が、国内最初のステージレースとなり、注目を引く大会となった。折しも台風の接近で、天候には恵まれなかったが、関係者の協力でも事終える事が出来た。</p> <p>■参加選手・・・ ●UCIレース 17チーム(93人) ●チーム関係者 60名 ●実業団レース 231人 ●地元ボランティア 1,540名 ●一般レース 61人 ■競技審判・・・40人 ●マスコミ関係者 20名</p>
<p><成果>上記の自転車イベントを通じて</p> <ul style="list-style-type: none">○大会参加選手・審判・関係者の来訪による交流人口の増加と宿泊に伴う経済的効果をもたらしている。○大会運営に関する看板製作・運送等地元業者活用による活性化への貢献。○情報発信の素材となり熊野地域を全国にアピール出来た。○環境にやさしい自転車を通じて環境保全・エコ意識を再認識させる。○地域の人々に“本当の本物”を間近で見てもらい感動していただいた。○毎年続けることでリピーターが増えてきている。

その他の事業(営利事業)の成果

<p>●新宮市小口キャンプ場の経営</p> <p>平成23年4月～8月までの営業を行う。183件の申し込みで、延べ、307泊、1,425名の利用があった。今年は、3月の東日本大震災震災後の出控えや、7月の台風6号、9月の台風12号で直接当地域が大きな被害を受けた為、客足が遠のき、過去最低の利用状況になった。その中で、地域別の利用者は、圧倒的に大阪府の方が多く(約5割)、次いで地元和歌山県で、この2地域で7割の利用者になる。6月は5年連続で利用者が無い状態が続いており、梅雨時のアウトドア活動が敬遠されている。8月の地元の夏まつりイベント(アユのつかみどり)は、これまで同様、喜んでいただいた。</p>
--

● 新宮市小口自然の家の経営

3月の東日本大震災後の出控えや、7月と9月の二つの台風により、当地域が大被害に遭い、熊野那智大社周辺や熊野古道大雲取越コースの被害他、熊野川の川船下りや、ジェット船も運行できなくなり、観光客を受け入れる事ができない状態になった為、観光客が激減した。しかし、災害ボランティアが関西一円から支援に来ていただき、宿舎として9月後半から10月末まで連日利用して頂いたおかげで、何とか、宿泊者数を2,000人確保できた。しかし、当地域の復興には、かなりの時間を要するようであり、これまでのような、古道歩きに訪れる方の減少が見込まれる。観光協会や行政機関と連携して、広報及び誘客活動に努める必要がある。

本年は180日の営業を行い、2,199名の宿泊者とその他利用者257名、計2,456名が利用して頂く事が出来た。厳しい状況にあるが、世界遺産の古道、熊野那智大社～熊野本宮大社を結ぶ、大雲取越え、小雲取越えの中間地点にある、古道歩きに絶対必要な宿泊所としての強みを発揮して、情報発信等による、誘客に努めていきたい。

● 新宮市交流促進施設さつきの経営

3月の東日本大震災後のキャンセルや出控えが目立つ中、ほんまもん修験道体験や5月の自転車イベント「TOUR de 熊野」による利用を図り、運営してきたが、7月の台風で機械室や源泉ポンプ等被害を受け、修復して間もなく、9月の台風12号による、壊滅的な被害により、休業に追い込まれる、無念の1年となった。

宿泊者1,952名、日帰り入浴者25,275名(無料入浴者5,300名含む)、レストラン客4,903名、宴会客682名、総利用者数32,812名という、開設以来の最少の結果となる。これまで、世界遺産川の参詣道の川舟センターとの協力や小口自然の家との連携をより密にして運営してきたが、厳しい、そして残念な状況を迎えるに至った。一日も早い、復旧再建を願うものです。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

定款の事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
その他第3条の目的を達成するために必要な事業	熊野古道 ほんまもん修験道体験(大雲取越)	平成23年 4月3日	和歌山県 新宮市 熊野川町	46名	150名	780
自転車イベントの開催	「第5回 白浜エアポートクリテリウム」大会の実施	平成22年 4月24日	和歌山県 白浜町	60名	一般及び 実業団選 手468名	2,839
自転車イベントの開催	第13回「TOUR de 熊野」大会の開催	平成22年 5月26日 ～ 5月29日	和歌山県 三重県	1,500名	一般及び 実業団選 手385名	25,234
自転車イベントの開催	第8回「熊野古道ヒルクライム」大会の開催	台風12号による被災の為中止				443
					合計	29,296

(2) その他の事業

定款の事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
キャンプ場の経営	新宮市小口キャンプ場	平成23年 1月1日 ～ 平成23年 12月31日	和歌山県 新宮市 熊野川町	16名	和歌山県 内及び関 西一円 1,425名	2,110
ホテル、旅館の経営	新宮市小口自然の家	平成23年 1月1日 ～ 平成23年 12月31日	和歌山県 新宮市 熊野川町	91名	和歌山県 内及び全 国・外国 2,456名	17,048
ホテル、旅館の経営	新宮市交流促進施設さつき	平成23年 1月1日 ～ 平成23年 12月31日	和歌山県 新宮市 熊野川町	154名	和歌山県 内及び全 国・外国 32,812名	55,777
					決算見込額	74,935